



Vol.12

第 12 回のテーマはこちら

## 「モルヒネによる呼吸困難の緩和」

### ～何をもって評価する？～

モルヒネを鎮痛目的に使用することに対して、呼吸困難の緩和目的に使用する際は 1/10 量でいいことは以前にお伝えしたとおりです。今回はその“呼吸困難”をどのように評価するかというお話です。

ひとつおさらいとして呼吸困難と呼吸不全の違いを整理しておきます。

呼吸困難…「呼吸時の不快な感覚という主観的な症状」

呼吸不全…「PaO<sub>2</sub> が 60mmHg 以下になるという客観的な状態」

つまり呼吸困難の評価というのは患者自身がどう感じたのかを確認しなければ評価できません。なので**基本的には患者に確認**して評価するということとなります。

患者に確認する際に注意してほしいのはモルヒネによる呼吸困難の緩和というのは**“呼吸困難を解消する”**という意味ではないことです。

あくまでも緩和ということで、**少し楽になる程度**で認識しているほうがいいかと思います。

でないと劇的な効果が出ると勘違いしてしまったり実は効いているのに効いていないと評価してしまう可能性があるからです。「少し楽になる程度なのか」とがっかりしてしまうかもしれませんがその“少し”が患者の生活にとって重要な意味をもつこともありますので侮れません。

また、「効果があるのかイマイチわからない」と患者自身に自覚がない場合もあると思います。そんな時は**呼吸回数**をみてください。

モルヒネの呼吸困難の緩和は呼吸中枢に働きかけて**“呼吸回数を減らすこと”**によるものが大きいです。呼吸回数がおおむね **20 回前後**となるような**“呼吸回数のコントロール”**を目標に据えるとわかりやすく評価もしやすいのではないかと思います。